

大学院入学から修了まで
臨床歯科学を専攻する学生のために



担当教員 齊藤 力 新垣 晋

口腔顎顔面科学講座

口腔顎顔面科学講座

顎顔面再建学講座

顎顔面再建学講座

組織再建口腔外科学分野

一般目標

	1年	2年	3年	4年	修了時
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 学術研究を進めるために必要な知識と技能を身につける。 ● 口腔外科疾患の診断、周術期管理を安全におこなううえで必要となる基本的な診断能力、治療技術、態度を習得する。 ● 口腔外科基本手技を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学位論文のテーマを決めて指導者とともに研究計画を立案し、研究計画に基づく基礎的・臨床的研究に着手する。 ● 一般的な口腔外科疾患の診断ができるようになり、治療方針を立てることができる。 ● 周術期の患者管理を安全におこなううえで必要となる診断能力、治療技術、態度を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究計画に基づく基礎的・臨床的研究を実践する。 ● 手術室での手術執刀医としてインフォームドコンセントがおこなえるようになる。 ● 周術期管理を安全におこなうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的・臨床的研究内容を総括して指導者と相談しながら学位論文を作成する。 ● (社)日本口腔外科学会専修医資格の取得に必要な診断能力、治療技術、態度を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学位論文を完成する。 ● (社)日本口腔外科学会専修医に相当する診断能力、治療技術、態度を習得する。

到達目標

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要な文献を検索できるようになる。 ● 患者への採し方、カルテの記載のしかた、他科への紹介状と照会状の書き方を習得する。 ● 診断に必要な所見の取り方を習得する。 ● 診断に必要な画像検査を選択・依頼でき、基礎的な画像診断ができる。 ● 診断に必要な臨床検査を選択・依頼でき、検査値の示す病態を理解できる。 ● 滅菌・消毒の概念を理解し、その手技を身につける。 ● 口腔外科で使用する器械・器具の名称と用法を理解する。 ● 切開法、縫合法、止血法、創傷の処置法を習得する。 ● 簡単な埋伏歯の抜歯手術等、外来での簡単な小手術ができるようになる。 ● 全身麻酔管理を実施し、呼吸管理の方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究テーマを決定し、研究計画を立案して、予備研究を実践し、その評価ができる。 ● 研究テーマに関連する文献を検索し、抄読できるようになる。 ● 炎症、養腫、腫瘍、外傷、顎関節疾患等について検査を含めて診断に至る過程を理解し、診断できるようになる。 ● 全身疾患を有する患者の外来手術管理ができるようになる。 ● 埋伏歯の抜歯手術、歯根尖切除術、嚢胞摘出術、消炎手術等、外来での基本的な小手術ができるようになる。 ● 入院手術患者の周術期管理を理解し、補助ができるようになる。 ● 救命救急の基本的処置ができる。 ● 抗菌薬、消炎鎮痛薬の選び方と使い方、処方箋の書き方を理解し、習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的・臨床的研究を実践し、結果をまとめることができる。 ● 入院下での手術が必要な患者に現在の病状、手術内容、合併症等を説明し、理解してもらうことができる。 ● 手術室でおこなう静脈内鎮静法、全身麻酔下での基本的な手術を執刀し、その周術期管理を安全におこなうことができる。 ● 助手以上の責務を負って顎矯正手術、痛・前歯病変の手術、唇口蓋裂手術、上顎洞関連手術、良性腫瘍・嚢胞・腫瘍形成疾患等の手術を経験する。 ● 外来での基本的な小手術ができるようになる。 ● 注射薬の使い方を理解し、習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎的・臨床的研究の成果を分析し、その内容を学会報告し、学位論文を作成する。 ● これまで経験した症例のうち、診断症例10例、全身疾患を有する患者の外来手術管理症例5例入院手術管理症例5例、執刀手術30例、経験手術5例についてレポートにまとめる。 ● 経験した症例について学会で報告し、論文を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究テーマに関する学位論文を完成し、投稿する。 ● (社)日本口腔外科学会専修医の認定を申請するのに必要とされる研修実績を修める。
------	--	--	---	---	--

教育資源

教育資源	<ul style="list-style-type: none"> ● 抄読会への参加。 ● 所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境。 ● 口腔外科外来および病棟、歯科麻酔科での研修。 ● 術前後症例検討会への参加、日本口腔外科学会および関連学会への参加。 ● 緊張実習。 ● 外科基本手技・手術ビデオライブラリー。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 抄読会への参加。 ● 所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境。 ● 口腔外科外来および病棟研修。 ● 術前後症例検討会への参加。 ● (社)日本口腔外科学会および関連学会への参加。 ● (社)口腔外科学会教育研修会、救命救急研修会への参加。 ● 外科基本手技・手術ビデオライブラリー。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 抄読会への参加。 ● 所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境。 ● 口腔外科外来および病棟研修。 ● 術前後症例検討会への参加。 ● (社)日本口腔外科学会および関連学会への参加。 ● 口腔外科学会教育研修会、救命救急研修会への参加。 ● 外科基本手技・手術ビデオライブラリー。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 抄読会への参加。 ● 所蔵図書、学術雑誌、文献検索環境。 ● 口腔外科外来および病棟研修。 ● 術前後症例検討会への参加。 ● 日本口腔外科学会あるいは関連学会への参加および発表。 ● 新潟歯学会への参加および発表。 ● 外科基本手技・手術ビデオライブラリー。 	
------	--	---	--	--	--

分野	1年	2年	3年	4年	修了時
包括歯科補綴学分野	<ul style="list-style-type: none"> ●顎機能を診断するための生体計測法の知識評価 ●模型診断記録 ●日本補綴歯科学会形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録 	<ul style="list-style-type: none"> ●顎機能検査機器を用いた診断記録 ●形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録 	<ul style="list-style-type: none"> ●顎機能検査機器を用いた診断記録 ●形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録 ●咀嚼機能評価記録 	<ul style="list-style-type: none"> ●顎機能検査機器を用いた診断記録 ●形態的困難度診査用紙への記載 ●症例検討会での報告記録 	<ul style="list-style-type: none"> ●関連学会が指定する治療記録用紙への記載
組織再建口腔外科学分野	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマを決めて文献検索し、レビューを作成して検討会で報告し、その内容を指導医が評価する。 ●担当した症例について検討会で報告後に報告書を作成し、指導医が評価する。 ●指導医のもとで簡単な外来小手術をおこない、指導医がチェックシートをもとに評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●立案した研究計画と研究経過を検討会で発表し、指導医が評価する。 ●担当した症例について検討会で報告後に報告書を作成し、指導医が評価する。 ●指導医のもとで基本的な外来小手術をおこない、指導医がチェックシートをもとに評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究結果を検討会で発表し、指導医が評価する。 ●担当した症例について検討会で報告後に報告書を作成し、指導医が評価する。 ●病棟主治医として指導医のもとで手術を執刀し、指導医がチェックシートをもとに評価する。 ●指導医のもとで外来小手術をおこない、指導医がチェックシートをもとに評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●研究成果を学外、学内の学会で報告し、論文を作成して投稿し、学位審査および編集査読委員による外部評価を受ける。 ●経験した症例について学外の学会で報告し、論文を作成して投稿し、編集査読委員による外部評価を受ける。 ●これまで経験した症例より他日本口腔外科学会専修医試験受験の申請資料を作成し、指導医が評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学術論文により学位審査を受ける。 ●査読のある学会誌に学術論文が掲載される。 ●他日本口腔外科学会専修医試験受験の申請資料を完成させ、指導医が評価する。
顎顔面放射線学分野	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行なう。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行なう。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行なう。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。 ●また、放射線施設利用者教育訓練は出席の結果をもって評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名・専門医1名が個々の画像診断報告書の内容を確認し評価を行なう。評価基準は別に定める。特に診断上、患者に多大な損害を与えるような記載があった場合には不適切と判断し、症例として加算しない。 ●また、放射線施設利用者教育訓練は出席の結果をもって評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人日本歯科放射線学会指導医1名が総合的に評価を行なう。
歯科医療管理学分野	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケース終了数 (50ケース以上) 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 担当教員による口頭試問 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケース終了数 (各70ケース以上) 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 担当教員による口頭試問 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケース終了数 (各70ケース以上) 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 担当教員による口頭試問 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケース終了数 (各70ケース以上) 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 日本歯科麻酔学会認定医試験の合否 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケース終了数 (各70ケース以上) 2. ケースプレゼンテーションと質疑応答 3. 日本歯科麻酔学会認定医試験の合否